



アース・エコ メールマガジン

アース・エコ
メールマガジン No.9-2
2018年4月20日(穀雨)
特定非営利活動法人
アース・エコ 発行

アース・エコ会員の皆様と、日頃からアース・エコの活動にご理解、ご支援をいただいている会員外の皆様にあース・エコの活動をお知らせするため、月2回、メールマガジンをお届けしています。

4月15日(日)から17日(火)まで、アース・エコと環境学習リーダー会エネルギー部会の合同研修旅行を行いました。参加したのは6名。訪れた所は2年前の熊本地震の被災地や昨年7月の九州北部豪雨の被災地など。災害や環境について6名それぞれの視点から感じた事などを報告します。



九州への研修旅行

九州研修旅行を終えて

毎年この時期に行っている研修旅行、今年は地熱発電見学を含め九州集中豪雨被災地、熊本地震被災地の復興状況を視察してきました。

地熱発電は、国内最大級大分県九重町の八丁原(はっちょうばる)発電所(九州電力)を見学しました。昭和52年から安定的に稼働しているそうです。

九州集中豪雨被災地は、朝倉郡杷木林田地区の赤谷川沿いの洪水被災地を視察しました。復興完了はまだまだ先のように見受けられました。

熊本地震被災地は、阿蘇大橋の崩落現場、熊本城の復興状況などを視察しました。阿蘇大橋の現場はテレビで何回も放映されましたが、崩落現場の巨大さに改めて

地震の脅威を感じました。現在崩落で分断されている国道はトンネルで現場を迂回。鉄道は開通見通しが立っていないそうです。

熊本城は、ボランティアガイドの案内で復興状況を確認しました。現在、復興工事優先のため場内には入れませんでした。「観光の『目玉』なので、優先的に工事を進めている。」との事です。

今回地震、集中豪雨による災害復興を確認しましたが、東北被災地と比べると、地震、津波、原発による複合的な災害なので、簡単には比較できない事をつくづく感じました。完全復旧には、まだまだ時間が掛かりそうに思いました。

[104]



八丁原地熱発電所



朝倉郡杷木林田地区



修復工事が進む熊本城



赤谷川の右岸は廃校になった旧松末小学校



九州北部豪雨の被災地 杷木町で

今回の研修旅行の最初に、昨年7月の九州北部豪雨で最も被害の多かった福岡県朝倉郡杷木地区を訪れた。同豪雨による死亡・不明者41人の内、半数以上の22人が杷木地区を流れる赤谷川(筑後川の支川)の流域内で被災したと言われている。筑後川への合流付近から赤谷川沿いに5kmほど上流に車を進め、杷木松末に到着した。山肌のあちこちに土砂崩れの痕が残っており、周辺では崩れた土地の整備や防砂工事が行われていた。一方、赤谷川を見ると、幅は10mにも満たず、深さは膝より浅く、子どもが川遊びできそうなごく小さな川である。また、Google 地図にも川名が出ていない。見た限りでは、こんな小さな川が大洪水を起こすとは、とても考えられない。想像を絶する未曾有の豪雨であったことを改めて感じさせられた。応急仮設団地がある杷木小学校にも立ち寄った。現在も48世帯、100人以上がここで暮らしているという。

杷木地区訪問の最後に、予め調べておいたラーメン店で昼食をとった。計画段階で「最初の昼食は本場のとんこつラーメンを食べる」と説明したら「さっぽろラーメンかも?」と茶化されたが、看板も味も間違いなく「本格とんこつラーメン」であった。地理的には大分との県境に近く、博多味が半分は不明だが。 [鈴木]

動き(エネルギー)を改めて実感

今回の研修旅行で、大分県九重の「八丁原地熱発電所」見学は、今まで、自然エネルギー活用として、「地球温暖化防止のために有望だよ」と子どもには話してきましたが、その調査、設置には多くの年月と調査が必要であること、そして、設置したあとも維持・管理のために多くの努力が必要なることを見て、簡単にはいかないことを子どもに話す必要を感じました。

もう一方の地球・大地(エネルギー)のとしての地震の被害地としての熊本城、益城町の見学では、その甚大な被害を目にして、想像を絶する規模と力の大きさに、ただただ驚くばかりでした。地球のエネルギーを利用するとか地球の動きに抗するとか、なんとも人類の力の小ささを感じることでした。

個人的には、熊本で地震の被害にあった友人3人とあえたことは喜びでしたが、半壊・全壊の判断認定のことや地震保険のことなど、現実的な話に改めて、事の重大さを思うことでした。 [西]



山腹のいたるところから水蒸気が吹き上がる



熊本地震被害のあった益城町の仮設住宅

地震と風車

M氏の案内で阿蘇にしはらウインドファームを見学した。1,750kWの風車10基で約7,100世帯分の年間消費電力量に相当する発電能力を持つというが、2年前の熊本地震で損傷を受け、大半が発電を停止している。

風力発電を近くで見るとはこれまでもあったが、稼働中の風車を下から見上げてその大きさを実感することは難しかった。ここでは修理点検のため地上に下された風車と発電機を間近に見ることができたのは僥倖だった。並べて置かれたブレード(羽根)の長さは30m程で、こんな大きな物が空を切って回っているとはにわかには信じ難い。ブルーシートに覆われたブレードの根本は人の背丈ほどの直径である。高さ60m程の支柱の先端に取り付けられる発電機は家ほどの大きさがある。



並べられた3本のブレード

このような巨大で頑丈そうな装置から生み出される電力エネルギーもさることながら、それをも簡単に壊してしまう地震が持つエネルギーの莫大さがこんなところにも表れている。 [桑原]



支柱だけになった風車が目立つ



ブレードの付け根



発電機

シニアの生きがいを求める同僚に拍手！

会社時代の同僚M氏。彼ぞ『肥後もっこす』の最たるもの』と言えるだろう。曲がったことが嫌いで頑固であるが、よく考え、行動力があり一度信頼関係ができるとそれを大事にして裏切らない。

私と同じ年代であるが、55歳で会社を飽き足らなくなり退職してベトナムと折衝してその商品を扱いながら、故郷の阿蘇の[阿蘇五岳]の眺望が良い場所を取得、じっくりとナチュラルガーデン、イングリッシュガーデンづくりを奥さんと発展させてきて、南阿蘇に定着させてきた。

年賀状でその活動を知り、今回の視察に案内を申し入れ訪ねたが、その情熱を込めた造園づくりは全員が感銘を受けた。初夏のチューリップ、ニリンソウ、バラ、レンギョウが咲き誇っていた。

シニアの「人生生きがいづくり」は具体的な夢をもって、「人生意気に感ず」で過ごしていくことが、最高であることを。有意義な往訪であった。 [児玉]



東京からイングリッシュガーデンのチューリップを鑑賞に来ていた女優の夏樹陽子さんと記念撮影。左端がM氏、右端が筆者



イングリッシュガーデンの花々



咲き誇るチューリップ



ナチュラルガーデン前で記念撮影

軌道と轍そして足跡

過去、さまざまな形跡(かたち)で、震災地へ訪れて行くことは、自然がもたらした警告を、自分の肌で感じることに、第一であり、その都度、自分のこれから身にふりかかる使命を背負うことが運命であると思います。途中で見た中で、印象的だったのは、復興支援のために、働いている工事現場の人たちの足跡と未だ復旧されない



鉄道のさび付いた線路(レール)、かつてそこには、さまざまな感情で電車を利用して過ごしていたのだと思います。敢えて、その感情には、ふれませんが、「駅の待合室で食べたおにぎりが忘れない」、この言葉を言った老婆、私はさまざまなドラマを想像しました。いつか、仮設のために作った道路や住宅は消えていく。この道路や鉄道を復興した人たちの足跡もアスファルトなどの下に消えていく。何より行方不明な人や犠牲になった人も、いつまたどこかで、起きるかもしれない、天災は、忘れた時にくる。これだけ科学技術が発達しているのに、予想がつかない。なぜだろうか? [山口]

黄砂にかすむ阿蘇

九重に泊まった翌朝、空に薄い靄(もや)がかかっていた。気象庁 HP では視程 5~10km の靄を観測していた。霧や靄は日中気温が上がると消えることが多いが、車で阿蘇に向かっていても晴れるどころか増々濃くなっている気さえする。北九州に住む知人が SNS で「黄砂」と教えてくれた。そう言えば本物の黄砂を見るのは初めてのような気がする。知人は PM2.5 のせいで花粉症のような症状になっていると言う。お気の毒なことだと思った。 [桑原]



奥が黄砂にかすむ阿蘇、手前は南阿蘇村の地産地消キャラクター「かなばあちゃん」

かんきょうフェア 2018 の開催に協力



4月7日(土)、8日(日) 相模原市役所前で「相模原市民桜まつり」が開催されました。と言っても桜は1週間前には完全に散って「葉桜まつり」となりました。さがみはら地球温暖化対策協議会はこれに合わせて相模原市立環境情報センターで「かんきょうフェア 2018」を開催しました。クールチョイスをテーマに、生活の様々な場面で簡単にできる省エネを紹介しました。協議会の団体会員であるアース・エコも開催に協力し、家電製品の買い替えでどの程度の省エネができるかをインターネットで調べられる「しんきゅうさん」のデモを行いました。[桑原]

4月理事会・例会・合同勉強会

4月5日(木) かながわ県民センターで4月の理事会・例会・合同勉強会を開催し、会員など23名が出席しました。

4月理事会

- 新規に入会した会員の紹介がありました。
- 平成30年度に予定している、地域環境学習の教室開催5件、イベント出展5件の活動が承認されました。
- 平成30年度通常総会の開催日時と、議案4件を提案することが承認されました。

4月例会

- 理事会で承認された10件の活動のうち、日程などが確定した6件について、実施内容の検討と参加者の調整を行いました。
- 前年度末までに完了した小学校の出前授業など2件について振り返り、今後の改善点などを話し合いました。

合同勉強会

(環境学習リーダー会エネルギー部会と合同開催)

- 偏光フィルムを使った万華鏡

新しい工作のテーマの提案があり、試作品が紹介されました。2枚の偏光フィルムの一方を回すと色が様々に変わって見えます。自然光を使う物、背後からLEDで照らすものなどのバリエーションも紹介されました。

- 自動販売機

飲料用自動販売機は、10年前は1台で家庭1軒分の電気を消費するとされ、問題視されていました。10年経過してどのように変化したのか2名の会員より調査報告がありました。技術改良により最新の物は10年前と比較して消費電力が1/2以下になっているようです。

- サイエンス小ネタ

「サイエンス小ネタ」と題して2件の話題提供がありました。ひとつは海洋廃棄プラスチックの海洋生物に対する影響について、特にサンゴに感染症を蔓延させているとの紹介がありました。また、海鳥やクジラがプラゴミを誤食するケースについても紹介がありました。

- 冷蔵庫の省エネ

1999年製と2013年製の新旧家庭用冷蔵庫について、実際の使用状態で実測した消費電力を比較した結果の報告がありました。新型は旧型の28%しか電力を消費しておらず、買い替えが有効です。

- テレビの省エネ

2008年製と2017年製の新旧小型テレビの消費電力を実測した比較結果の報告がありました。同一条件で使用したときに、新型は旧型の1/3程度の消費電力であることが分かりました。

- 省エネなどに関する事業者アンケート結果

相模原市内の中小事業者を対象に省エネなどに関するアンケート調査を行った結果について報告がありました。 [桑原]



発表を聞く参加者の皆さん



偏光フィルムを使った万華鏡 フィルムを回すと色が変わる

これからの活動予定

- ◇ 5月26日(土) かながわエコ10フェスタ 日本大通り
 - ◇ 6月24日(日) さがみはら環境まつり ユニコムプラザさがみはら
- 会員外の皆さんも、例会・勉強会やほとんどの活動を見学することができます。詳しくは事務局にお問合せください。

earth.eco.jimukyoku@gmail.com

5月の例会・勉強会

5月3日(木) 13:30-16:30
かながわ県民センター会議室
会員の皆さんのご参加をお待ちしています。

平成30年度通常総会開催のお知らせ

アース・エコの平成30年度通常総会を下記の通り開催します。後日ご案内と議案書をお送りしますので、ご予約いただくと幸いです。

~~~~ 記 ~~~~

日時：5月24日(木) 午後3時~5時 (2時30分受付開始)

場所：かながわ県民センター705会議室

総会終了後、懇親会を予定しています。

議案書は5月15日頃にメールまたは郵送で発送の予定です。



地球温暖化やボランティア活動に関心のある方

### 私たちと一緒に活動しませんか？

アース・エコの活動に参加してみませんか。例会・勉強会の見学も歓迎します。事前にメールでお問い合わせください。⇒ [info@npo-earth-eco.com](mailto:info@npo-earth-eco.com)

会員募集中！

アース・エコ

検索



### 私たちの活動は皆さまからのご寄附で支えられています

アース・エコへの寄附は「よこはま夢ファンド」にお申し込みください。インターネットまたは郵送・ファクス・Eメールでお申込みの際に、支援したい団体に「アース・エコ」をご指定ください。税の優遇措置が受けられます。

詳しくは <http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/>

### アース・エコは地球温暖化防止活動に取り組むボランティア団体です。

ホームページ <http://www.npo-earth-eco.com>

お問い合わせ、お申込み、メルマガ配信希望・配信中止のご連絡はこちらまで [info@npo-earth-eco.com](mailto:info@npo-earth-eco.com)